

30年6月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 6月1日～ 30年6月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/6月	7月	8月
仕入 動向	国産材製材品	35.7	28.6	14.3
	外材製材品	7.1	7.1	7.1
	構造用集成材	25.0	16.7	8.3
消費 動向	国産材製材品	28.6	14.3	7.1
	外材製材品	21.4	7.1	0.0
	構造用集成材	33.3	16.7	0.0
在庫 動向	国産材製材品	21.4	28.6	14.3
	外材製材品	7.1	0.0	0.0
	構造用集成材	16.7	8.3	0.0

・国産材製材品、外材製材品、構造用集成材の仕入動向は3カ月連続増加。

・国産材集成材の消費動向は3カ月連続増加。外材製材品、構造用集材は6月、7月の増加から8月は横ばいに。

・国産材製材品の在庫動向は3カ月連続増加。外材製材品は6月の増加から7月、8月は横ばいに。構造用集成材は6月、7月の増加から8月は横ばいに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/6月	7月	8月
受注	28.6	21.4	14.3
加工	42.9	14.3	14.3
受注残	21.4	0.0	△ 7.1

・プレカット工場の受注、加工動向は3カ月連続増加。

・受注残は6月の増加から7月は横ばい、8月は減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・国産材、外材とも丸太は落ち着いてきているので製品も安定。不足製品はない。順調に消費している。在庫は梅雨を控え多く持ちたくない時期。構造用集成材は仕入、消費、在庫とも実績なし。
・一定の生産量を見込んでいたので仕入、消費、在庫ともに横ばい。

(受注動向)

・受注の減少により先々に不安定感が残る。梅雨時期に向かい加工量は減少する。
・当月から翌々月までは大きな動きなし。